

平成 20 年度地盤工学会賞（地盤環境賞）の受賞

応用地質株式会社

この度、当社が平成 20 年度地盤工学会賞の地盤環境賞を受賞しましたので紹介いたします。

受賞内容

- 授賞機関：地盤工学会
- 賞の名称：地盤工学会賞地盤環境賞
- 受賞業績名：地盤環境の変化に着目したダム湖の応用生態工学的研究、地域活動
- 受賞者：応用地質株式会社

今回、当社が地盤工学会から地盤工学賞地盤環境賞を頂いた「地盤環境の変化に着目したダム湖の応用生態工学的研究、地域活動」は、福島県の三春ダム湖畔に当社が設立した「応用生態工学研究所」を中心として活動してきたものです。

応用生態工学研究所の活動紹介

人工的な環境変化に対して、どのような因果関係をもって新しい自然環境が形成されるのかについて、科学的に予測し評価する技術は未だ発展途上であり、予測可能になればより良い環境に導くために、あらかじめ対策が考えられることとなります。当社は、そのような土木工学と生態学を融合させる科学・技術、すなわち応用生態工学の確立を目指して、応用生態工学研究所を設立しました。そして、三春ダムを一つのケースヒストリーとして捉え、ダムができてからの環境の変化をあらゆる角度から追跡してみたいと考えて、ダムに水が貯まる前から応用生態工学の研究をスタートしました。

応用生態工学研究所では、環境変化の基礎として地盤に着目して、ダムの運用と土砂、植生、河床材料、底生動物などとの関係を綿密に調査・研究してきました。この研究成果については、既に、環境評価事例として活用されています。

また、同研究所では、上記のような自然科学的な研究だけでなく、毎年開催している「さくら湖自然環境フォーラム」の事務局の一員として、地域の小・中学校の学習支援などを行っています。この中では、地域の方々を対象に、時代とともに変化する土手や川底、水田の状況などと、魚や水質がどのように変化してきたかを、小学生とその父母世代、祖父母世代に対して「三世代アンケート」という形式で行い、地域の方々に郷土の自然の変化を考えて頂くことができました。

応用生態工学研究所の活動紹介写真



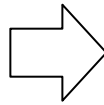
応用生態工学研究所



三春ダム(さくら湖)



湛水前



試験湛水中

ダムへの湛水に伴う植生の変化例



有識者によるパネルディスカッション



外来魚駆除の野外イベント(地引網)



さくら湖自然フォーラムでの小学生の発表